主催　第57回日本学校保健学会年次学会
日本学術会議心理学・教育学委員会教育の質向上検討分科会

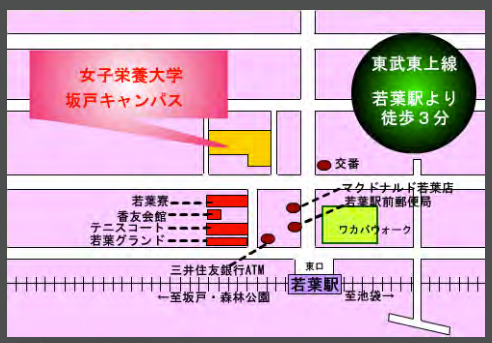
実践や学問構築に活かす質的研究

教育学・心理学領域では、質的研究といったアプローチが多く用いられている。しかしながら、学校保健学領域においては、従来より、医学・疫学的アプローチが主流であった。近年、わずかながら保健室や養護教諭に関連した質的研究が見られるようになってきている状況である。しかしながら、投稿論文における査読のプロセス等、課題は多い。

また、学校保健学や養護教諭に関する養護学など、学問構築も開発途上の段階の状況である。さらに、養護教諭や学校保健といった教育実践においても、その質等を担保する視点からも質的研究は、重要と考えられる。従って、第57回日本学校保健学会年次学会、日本学術会議心理学・教育委員会　教育の質向上検討分科会と、本シンポジウムを開催することとしたい。

2010年11月28月（日）10時10分～11時50分

会場　女子栄養大学坂戸キャンパス



〒350-0288
埼玉県坂戸市千代田3-9-21

入場無料

当日参加可

コーディネータ

岡田加奈子（日本学術会議連携会員・千葉大学教育学部教授）
朝倉隆司（東京学芸大学教授）

シンポジスト

1．学校教育の実践と質的研究―教育心理学の立場から
　秋田　喜代美（東京大学大学院教育学研究科教授・日本学術会議会員）

2．養護教諭の実践と質的研究　―養護教諭の立場から―
　冨塚　都仁子（千葉市立宮崎小学校・養護教諭）

3．実践と質的研究　―現職並びに大学院での経験から―
　平川　俊功（東京家政大学・特任准教授）

4．質的研究の可能性と課題　―質的研究の試みからみえてきたもの―
　小林　央美（弘前大学・准教授）